

もし、自分や大切な人が認知症になったら、 どんな地域であれば、 安心して暮らせると思いますか？ ～みなさんで考えてみませんか～



テーマ

「認知症のある方も ない方も
安心して暮らせる地域づくりについて考える」

認知症はネガティブなイメージが根強く、孤立につながっている・・・

認知症についてネガティブな考え方がいまだ根強く残っており、相談や受診の遅れ、
認知症であることを周囲に伝えられないことによる孤立につながっている場合があります。

認知症の当事者やご家族の声

困ったときに地域で
声をかけてもらえる
と安心する

診断後、ショックを受け、
その後どうすればいいの
か分からなかった



近所の人には
話しにくい

人生 100 年時代！認知症の考え方のアップデートが必要！

視点	これまでの認知症のイメージ	新しい認知症観
● 本人	認知症になったら何もできなくなる 自分の思いを伝えることができない	分かること・できることはたくさんある 自分の思いを伝えることができる
♡ 家族	全てをやってあげなくてはならない	本人がやりたいこと、できることは自分でやってもらう 家族だけで抱えず、周囲のサポート・サービスを活用する

区の認知症に関する主な取組



(詳細はこちらから)

認知症になってからも自分らしく暮らし続けるために、
区では以下の様々な取組を行っています。

認知症サポーター養成講座

学ぶ

認知症について理解し、できる範囲で手助けするサポーターを養成します。

一般区民、小学校などの学校関係、企業・事業所などを対象に講座を実施しています。



チームオレンジ

地域で
つながる

認知症本人や家族、認知症サポーターが地域でともに活動します。

集いの場や音楽やボードゲームを楽しむ場など多様なチームがあります。

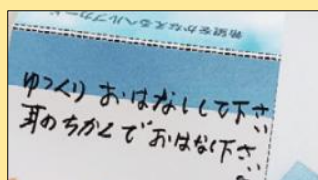


「ボードゲーム倶楽部」

希望をかなえるヘルプカード

伝える

自分が伝えたいことをカードに書いて、
周りの人に見せて使うカードです。



「ヘルプカード体験会」



認知症あんしんガイドブック

知る

認知症本人に向けて知っておきたい情報を
まとめた1冊です。

相談先や仲間とつながる場所、ヘルプカード等
を載せています。



認知症本人からの動画メッセージ



認知症本人大使
「希望大使」
丹野智文氏

映画「オレンジ・ランプ」のモデルとなった若年性認知症
当事者の丹野さんより、認知症サポーター向けの動画
メッセージをいただきました。
右記二次元コードでご覧ください。

